

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 010	提案機関名 横浜農業協同組合
要望問題名 カキ「太秋」「次郎」等の花芽着生の内生要因の解明	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 ・「太秋」は直売地域では大玉、高品質の人気品種ですが、若木から成木になるころから雌花の着生が不足したり不安定化がひどくなり、そのことがカキ農家の減収につながっています。すでに研究成果として雌花着生を維持するための夏肥の重要性については普及してきておりますが、現場では夏肥や強い結果母枝の利用だけでは安定して雌花が確保できない状況があります。基礎研究として雌花着生の内生的な要因の解明をお願いします。 ・「次郎」については昔からの品種ですが、近年花芽の着生が不安定になっています。「太秋」との混植園が多い中で、「太秋」に対する夏肥の施用が「次郎」の花芽着生に影響しているような様子が見られます。「太秋」同様に要因の解明をお願いします。 ・なお現地の樹体の調査が必要な場合は、可能な限り協力します。 ・対象地域は横浜市全域	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 果樹の高品質・安定生産技術の開発		
対応の内容等	カキの花芽着生には窒素施用量や施用時期が影響しているとの報告があります。 横浜地域を中心に花芽着生状況や施肥量・施肥時期等の実態調査を行い、上記試験研究課題の中で実施しますので、実施の際には、現地調査の御協力をお願いします。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			